




令和4年10月13日発行
 第13号
 岡山市教育委員会
 生涯学習課公民館振興室
 (岡山市北区幸町 10-16,
 TEL (086) 234-6015)
 公民館振興室 HP 

地域の子どもと大人がつながる場

北公民館「キラリ★北みらい塾」

今年度から、子どもと地域の大人がつながる場づくりや子どもの学習支援を目的とした「地域未来塾」の取組を開始しており、現在、20の公民館で実施しています。

北公民館では、6月から「キラリ★北みらい塾」と題して開催しており、子どもの学習支援18回と体験学習4回の計22回実施予定です。

学習支援では、子どもが問題集や夏休みの宿題などを持参し、ボランティアとして参加している地域の大人や大学生が子どものわからないところをサポートします。



子どもたちが学習している様子

一人で参加している子どもが多いため、はじめは緊張していた様子でしたが、次第にボランティアの人たちとも顔なじみになり、学年の違う子どもとも会話を交わしながら過ごすようになってきました。

体験学習では6月に、みんなでさつまいもの苗植えを行った後、手作りの水鉄砲で遊び、参加者同士の交流が深まる楽しい会となりました。



さつまいもの苗植え体験

保護者からは「コロナ禍で出かけることができないので夏休みに子どもが行くところがあって助かった」「家では全然宿題をしないので、こういう場があると助かる」、大学生からは「子どもとの接し方や教え方など勉強になることが多い」「高齢者と関わる機会が少ないので良い経験になった」との声がよせられました。

今後も、子どもが成長できる居場所であり、子ども、大学生、地域の大人たちがつながり、世代間での交流の場となるよう支援していきたいと考えています。

「地域未来塾」とは…

地域未来塾は、公民館等を利用して、地域住民や大学生がボランティアで行う子どもたちへの学習支援です。子どもたちは、自分がやりたい内容を自習しますが、外部の講師による特別授業を行う場合もあります。

子どもたちは、地域未来塾に参加すること

で、地域の方や大学生などのいろいろな人と関わる機会を得ることができます。地域の方にとっては、ボランティアで子どもたちの学習をサポートしたり、地域の子どもの成長にかかわったりすることで、やりがいを感じる機会となります。地域における子どもたちの居場所として、また、地域の方と子どもたちがつながる場として広がることを期待しています。

※「れんめんめん」の由来…「連綿」と途切れることなく、「面」のように広がりを持ちながら、人々の営みが将来へとつながり未来を拓いていくことができるように、という願いを込めています。

※QRコードの商標はデンソーウェーブの登録商標です。

【若者の地域参画】

地域の人とふれあい みんなが「楽しくなる」活動を

藤田公民館
「藤田を楽しくし隊！」

中高生 80 人が登録

藤田公民館では、令和元年度から中学生、高校生の登録ボランティアグループ「藤田を楽しくし隊！」(以下「楽しくし隊！」)の活動を始めました。「楽しくし隊！」は「自分たち自身が楽しむこと」、「どうやったら人を楽しませることができるか考え・話し合い・作り出し・人を楽しませること」、「地域の人とふれあうこと」を目的としています。今年度は中学生 58 人、高校生 22 人の申し込みがあり、中高生が地域活動や公民館行事に主体的に参加しています。

5月には「JA 岡山藤田支所女性部フレッシュミズ」から藤田の特産品、玉ねぎの親子収穫体験会のサポート役の依頼がありま



玉ねぎの収穫体験会

した。当日は、農家の方から玉ねぎの収穫の仕方を教わって、玉ねぎのまわりの草を刈るなど、子どもたちの収穫のサポートをしました。玉ねぎにまつわるクイズ大会も行い体験会を盛り上げ、参加者の親子にとっても楽しんでもらえました。

「夏のお楽しみ会」を企画運営

地域の有志の方が中心となって子ども食堂「ふじたとんとん食堂」を実施しています。この「ふじたとんとん食堂」ではみんなでご飯を食べる前に「ふれあいの時間」を設けていますが、8月は「夏のお楽しみ会」として、「楽しくし隊！」が会の企画・運営を担うこととなりました。



「ふじたとんとん食堂」の様子

どんなことをすれば子どもたちに楽しんでもらえるか、中高生みんなが話し合いました。その結果、ペットボトルボーリング

や、じゃんけん列車など、おもに身体を使った遊びの部屋、かるたやイラスト伝言ゲームなどの頭を使った遊びの部屋、色紙に絵を描きラミネートする「しおり」作りの工作をする部屋をつかって、参加者に部屋をまわりながらいろいろな遊びを体験してもらおうということになりました。



「じゃんけん列車」で遊ぶ子どもたち

当日は、部屋ごとに、はじめの言葉、司会進行、タイムキーパー、案内係、遊びのリーダーの役割を決め、すべての運営を中高生が担いました。

この他、会を知らせるためのチラシづくりにも取り組み、かわいい手作りチラシで広報も行ったことで、子どもの参加も増えました。小学生や幼児はとて楽しく遊んだうえ、「ふじたとんとん食堂」でおいしいご飯を食べ、大満足で帰っていきました。

中高生が自信をもって活動

「楽しくし隊！」の活動も4年目を迎え、中学生の時から参加し高校生になっても活動に参加している人がいます。続けて参加することで、「仲間に自分の意見をうまく伝えることができるようになってきた」「苦手なことができるようになった」などの感想があり、少しずつ自信をもって活動している姿に中高生の成長が伺えます。

また、多くの地域の人たちに活動が知られるようになってきており、「防災訓練の時に楽しく防災体験ができるコーナーを考え担当してほしい」「藤田桃太郎どんぶらこまつりでブースをもって盛り上げてほしい」などの依頼がきており、中高生の活躍が期待されています。

今後も、中高生が主体的に活動し、地域に根差した活動となるようサポートしていきます。



かるたで遊ぶ子どもたち

地域の防災力を高める～第11回防災キャンプ～

吉備公民館

多世代が集まり防災体験の機会を

吉備公民館では、平成23年度から防災キャンプを毎年開催しています。今年も地域の各種団体でつくる実行委員会と主催講座「ちちとこくらぶ」との共催で9月11日に実施し、親子連れや高齢の方など149名が参加しました。



起震車での体験や火起こし体験の様子

当日は、お父さんたちがグループリーダーとなり、参加者は各コーナーをまわって防災に関する様々な体験をしました。ボーイスカウトの中学生が講師となって非常時での火の起こし方を子どもたちに教えました。大雨の時の服装や持ち物を考える水着せ替えゲームや、ジャッキを使って、ナマズ人形に押しつぶされたカエル人形を助けるジャッキアップゲームなども行

い、体験しながら楽しく学ぶことができました。

参加者からは「どの体験も非常時に生かしたいと思った」「家でもう一度やってみたり、家族で防災について話し合ったりするきっかけにしたい」、実行委員からは「継続していることで家族連れなど若い人の参加が増えてきた」「毎回新たなことを学び、関わり方もより主体的になっている」などの感想がありました。

今後も、地域の幼児から高齢者まで幅広い世代が集い、防災に関する様々な体験の機会を継続していくことで、日頃の備えを考え、「共助」



ジャッキアップゲームの様子

の意識を高め、災害時の団体間の連携やネットワークづくりにつながっていくような取り組みを実施していきます。

「生き物の保全」シリーズ② 万富公民館

世代を超えて広がる
アユモドキの保全活動

旭川水系・吉井川水系などに生息するアユモドキは、国の天然記念物で絶滅危惧1A類に指定されている淡水魚です。



アユモドキ

大きくなるとアユに似ていることからアユモドキと言われ、親魚の体長は約8～20cm、体には暗褐色の縞が7～11本あります。

平成14年に瀬戸町内の吉井川の支流で稚魚が発見され、保全活動が始まりました。その中心を担う「瀬戸アユモドキを守る会(以下、守る会)」は、産卵場所であるビオトープ「アユモドキの里」の環境整備や、稚魚観察会を実施するなど、繁殖状況を見守る活動をしています。守る会が

協力し、千種小学校では、5年生が総合的な学習の時間に人工繁殖や飼育活動に取り組んでいます。ここで繁殖した稚魚は、万富公民館、瀬戸公民館、キリンビール岡山工場でも水槽飼育し、来訪者に親しまれています。

また、県立瀬戸高等学校でも、今年度の総合的な探究の時間に「外来種からアユモドキを守る」をテーマとしたグループが活動しています。

万富公民館では、令和元年度に「アユモドキの人工繁殖から地域の自然を考えるワークショップ」を開催し、千種小学校生が発表し、地域の方々と考える機会をもちました。今後も、生き物の保全に興味を持つ方々をつなぎ、一人でも多く保全活動に興味を持っていただけるよう取り組みたいと考えています。



アユモドキ稚魚観察会の様子

漱石ゆかりの地で初のミュージカル上演！ 第6回漱石フォーラムを10月30日に開催

「ウエルカムトゥカナダー♪」。小泉醤油店旧醤油蔵ホールに歌声が響き渡っています。声の主は小学生から70代までの約10人。毎週のように集まり、通し練習に熱が入ります。

10月30日（日）に第6回漱石フォーラムを漱石フォーラム実行委員会と上南公民館の主催で開催します。今年のフォーラムでは、ミュージカル女優の清水ゆきさんの脚本・演出で初めてミュージカルが上演されます。夏目漱石の本名が夏目金之助であることから、演目は夏目漱石ミュージカル「金ちゃんがやってきた!」。明治25年夏に、漱石は当時すでに亡くなっていた次兄栄之助の元妻小勝の再婚祝をもって上道郡金田村（現岡山市東区金田）を訪ねています。



ミュージカル練習の様子

清水さんは「漱石がこの上南地区を訪れた3泊4日を中心にミュージカルで描きます。来訪を歓迎した村の人たちとのエピソードをまじえながら楽しい作品となると思いますのでご期待ください」と意気込みを語ってくれました。



清水ゆきさん

また、漱石フォーラム実行委員長の小泉真さんは「漱石ゆかりの地として上南地区を知ってもらい、地元に住む私たちもより地域に愛着と誇りが持てるようになるのでは」とこのイベントへの参加を呼びかけています。

イベント当日は、ミュージカルの他にも講演会やライブ演奏、「漱石マルシェ」屋台村の出店があります。ミュージカル鑑賞には申し込みが必要です。詳細や申込については上南公民館へお問い合わせください。

(電話 086-948-3352)

シリーズ地域の宝や魅力を未来へつなごう②

鳥城紬 ～伝統的な織物を後世に～ 岡西公民館

その織り方に特徴のある鳥城紬（うじょうつむぎ）は江戸時代から200年以上続く岡山市の伝統的な織物で、昭和63年に岡山県郷土伝統的工芸品に指定されています。平成25年には、鳥城紬四代目織元の須本雅子さんが「全国伝統的工芸品公募展」にて内閣総理大臣賞を受賞されました。

かつては糸紡ぎ、染色、機織り等の工程は分業されていましたが、須本さんは「作った紬に責任を持ちたい」という思いから、全工程を一人で行う決心をされ、実践しておられます。



主催講座の受講生による機織りの様子

平成7年、当時の岡西公民館長が須

本さんに「岡山の大切な伝統工芸の技と文化を伝承してほしい」と声をかけ、主催講座「鳥城紬」はスタートしました。

須本さんは、伝統を後世に残せるよう感覚や目分量ではなく、分かりやすい言葉を使い、具体的に数字で示すなど努力を重ねておられます。主催講座生として学んだ人たちも須本さんの「技術を継承していきたい」との意思を酌み、クラブ講座を立ち上げ、地域団体「鳥城紬保存会」の活動も行っています。現在、主催講座生（初心者）15名、主催講座を修了したクラブ講座生37名、また、「鳥城紬保存会」には50名近くが在籍しており、継承活動は確実に地域に根付いています。



主催講座の受講生による糸紡ぎの様子

※クラブ講座…住民が自主的に企画、運営する講座で、住民の申請を基本に各公民館が開設している。